

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4075200222		
法人名	有限会社ユーコー商事		
事業所名	グループホームきもりの家		
所在地 (電話番号)	福岡県遠賀郡遠賀町大字木守 1188番地 (電話)093-293-3841		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(19年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人 非常勤3人 常勤換算	14,2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)		築3年
建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一日あたり 1,000円		

(4) 利用者の概要(7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	名				
要支援2	名				
年齢	平均 85.3 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健愛記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

穏やかな田園風景の中にグループホームきもりの家がある。甘い香りの風が通るホーム内は、広々としていて、ほっとする雰囲気をかもし出している。職員も穏やかで落ち着いて利用者と一緒に時間を過ごしているホームである。病院併設のホームであり、健康管理には万全を期していると同時に、入院は必要ではないが何らかの在宅医療が必要な方を積極的に受け入れて、本人や家族から強い信頼を得ている。管理者の「病気を持った方が安心して生活できる受け皿になる」という信念に基づき、最後まで在宅でと希望される利用者や家族の強い応援団として、グループホームきもりの家がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善点は機能的であるがホームが無機質で施設を感じさせることであった。トイレや浴室、居室の表示の仕方に工夫が施され、ホットする雰囲気に改善されている。ハードな面はいかんともしがたいが、表示の工夫でやわらかい雰囲気に改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は職員も一緒に取り組んでいる。改善については職員で話し合い検討している。今回の評価の結果を運営推進会議でも話し合うことにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には、行政、自治会長、家族、利用者などの参加を得て開催されているが、まだ取り組みが、十分に活かされていない。会議を重ねることによってだんだん見えてくるものがあると思われる。今後、充実した取り組みになることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口の明示やご意見箱が用意されているが、活用されていない。苦情が言いにくい家族の気持ちを考え、なんでも言える良好な関係作りが望まれる。ただ市町村の介護相談員の受け入れにより相談員への相談はある。又玄関が施錠されているため面会の家族が帰られる時玄関まで見送り時に相談されることもある。相談しやすい雰囲気作りが相談や意見の表出に繋がる。今後の努力が望まれる。
重点項目	行政との情報交換や、近くの幼稚園との交流、中学生の社会体験の受け入れなど、連携はある。又お祭りや敬老会の参加なども積極的に行われているが、すぐそばの地域の方との積極的な交流も希望する。たとえば災害や、火災訓練に近くの地域の方の参加が得られるような関係作りが望ましい。特に夜間の災害に際しては近くの地域住民の方の協力は不可欠である。日常生活の中での交流が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの特徴である医療との連携の理念である。		地域の中でその人らしく暮らし続けるという、地域密着型の理念への変更又は追加が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を玄関、ホールに掲示し、管理者は、職員に話しをし、実践につなげている。職員も名札の裏に印刷されている理念を確認し活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会への加入はないが、地域の行事や、お祭りに参加し、交流を深めている。今年度の地域の敬老会にお誘いを受け、参加の予定である。近くの幼稚園や中学校の社会体験の受け入れなど地域に開かれたホームである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を理解し、今回の自己評価も職員の参加により行われた。評価の結果は朝の職員会議で話し合いを行うことにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヶ月に1回開催している。行政、地域の自治会の方、家族、管理者の出席で、ホームの現状報告が行われている。次回の運営推進会議では、今回の評価結果を報告し意見を聞き、サービスの質の向上に活かしていく。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合の介護保険事業者と行政の、定期的な会合に参加し、市町村と連携している。また、相談があれば出かけている。市町村の介護相談員を受け入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度に関する資料はあるが、具体的な活用方法や相談機関などの資料がない。</p>		<p>研修会への参加や、活用方法の資料、相談機関など必要な人への支援体制の整備が望まれる。又、運営推進会議に地域包括支援センターの相談員に出席してもらい、話を聞くなど、家族や地域の方との一緒に勉強会なども考えられる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>管理者や職員は、家族来訪時に金銭管理の報告を毎月行っている。同時にホームでの暮らしぶりや状況も知らせている。来訪できない家族には郵送している。前回の改善点である「ホーム便り」を来月より発行する準備中である。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議での意見、面会時の話し合いの中で意見や要望を聞き、申し送り時に話し合い、運営に反映している。また、意見箱の設置はあるが利用は少ない。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職が少ない。3年間で3名。スタッフの交代は、ユニット間の交代であり、利用者へのダメージはない。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の募集に当たっては、年齢、性別による制限はない。職員の社会参加や自己実現に配慮したローテーションを組んでいる。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる</p>	<p>管理者は機会あるごとに人権尊重に関して、職員に話しているが、研修会への参加や、啓発活動までには至っていない。</p>		<p>各団体や、行政の行う研修の受講や、啓発活動に取り組むことが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修や、行政との話し合いによる情報の収集は行なわれているが、計画的な研修、ホーム内での内部研修が不足している。</p>		<p>研修や、訓練の年間計画を立て、全職員が共有できるようなシステム作りや、研修会へ参加しやすいように、職員と話し合いながら勤務ローテーションを調整し、研修会参加のための工夫が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、町の福祉事業者連絡会議へ参加し、交流している。		今後は、近隣のグループホーム同士で連絡協議会をつくり、ネットワーク作りや勉強会などで職員間の交流を図り、情報交換やサービスの質の向上を目指すことが望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はないが、デイサービスの体験により利用者や家族が馴染みながら相談し、納得した上で、サービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に洗濯物たため、食事の後片付けや、料理の味付けなどいろいろな場面で、一緒に過ごしながから学ぶことも多く、利用者と共に支えあう関係で、落ち着いて穏やかな毎日を過ごしている。		
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は受け持ち制を取っていて、馴染みながらじっくり話が出来関係作りが出来ている。その中で利用者の意向や、希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、職員と話し合いながら介護計画を作成している。本人や家族の意向をくみ取り、特に家族の面会時には、じっくり話しを聞き計画に反映している。介護計画に家族のサインもある。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ、評価を踏まえた介護計画の見直しが行われている。変化があったときも、本人、家族や職員と話し合いながら変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関に併設されたホームのため、緊急時や定期健康診断、看護師による在宅医療行為など利用者や家族の要望の多い支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、本人や家族の希望が多く、特に緊急時の対応を考えて隣接した併設医療機関で受診している。歯科、眼科は他の提携医療機関で受診している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針が定められており、本人や家族の希望を聞き、話し合いながら決定する。医療機関に併設されたホームのため連携が密に取れている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを損なうような言動、行動はとっていない。訪問時もさりげないトイレ誘導をしていた。個人の記録に対しては十分に配慮し、関係者以外には話さないよう守秘義務を徹底している。今回の外部評価に関する利用者の情報は家族の了解を得ている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の利用者の思いや希望を聞きながら過ごしている。買い物や散歩など、希望に沿った対応で、利用者のペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に楽しみながらの食事である。利用者が味付けした副食などを話題にして、楽しい食事風景である。家族の希望で同じ食器を使うことを望んでいるので、一人ひとりに形や色を変えた食器を用意している。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回が基本である。利用者の希望は可能な限り取り入れているが、現在は利用者の重度化が進み対応困難な状況である。特に夜間に関しては対応できないため業務内容の改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、配膳、下膳、日めくり、園芸、洗濯物干し、たたみなど、日々の暮らしが、楽しみや張り合いのあるものになるように職員は利用者の日々の状態を見ながら支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、外食など外出の支援をしている。		外出支援はまだ充分ではない。限られた職員の中でどのように外出の支援をするかが今後の課題である。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中も玄関は施錠されている。鍵をかけることの弊害は理解しているが、外部からの、訪問販売、不審者の侵入の恐れがあるための施錠である。一度不審者の侵入を体験したため利用者の安全のために施錠している。		不審者の侵入に対しては警察の巡回や防犯ベル、センサーの設置や職員の対応などで解決できる。むしろ、鍵をかけられ外に出れない状態で暮らすことで、利用者にもたらす心理的な不安、閉塞感、家族や地域住民にもたらす印象などを考慮し、日中鍵をかけない工夫が望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	定期的な災害訓練、避難訓練が消防署の指導で行われている。避難場所も周りが広々とした空間になっていて安心である。夜間を想定した訓練、地域住民の協力での訓練が行われていない。		災害時、特に夜間の火災などは、地域住民の協力が不可欠である。日頃から地域住民との交流や避難訓練への参加要請など協力してもらえらる関係づくりが大切で、併設の医療機関の協力も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録により把握されている。医療機関併設のホームのため健康面への支援は万全である。献立は栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有の空間は広々として、自然な光が取り入れられている。訪問時はホームの納涼祭りの後であったため夏らしいお祭りの飾りつけである。スロープに続く中庭で時々、食事やおやつを食べたりし、周りの田園風景の中で、心地よく過ごせる空間がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたものが持ち込まれていて、それぞれ個性的で居心地よく過ごされるようになっている。仏壇も家族と相談されて持ち込まれている。家族の泊まる部屋はないが居室が広いので宿泊は可能である。		